長崎県諫早市

天正遣欧少年使節

千々石ミゲル 諫早の地に眠る

「千々石清左衛門の墓」諫早市指定文化財



16世紀イタリア人が描いた千々石ミゲルの肖像画（ウルバーノ・モンテ著「年代記」より）

２００３年12月に長崎県諫早市多良見町山川内で発見された「千々石ミゲルと思われる墓石」が、4回にわたる民間団体の発掘調査を経て、「千々石清左衛門の墓」として市の文化財に指定されました。

天正遣欧少年使節の一人である千々石ミゲルは、ヨーロッパを見て帰ってきた最初の日本人と言われ、日本史を語るときには欠かすことのできない人物です。

天正遣欧少年使節の4少年の中でも唯一、千々石ミゲルは終焉の地が明らかになっています。

また天正遣欧少年使節とともに、日本に初めての西洋式の「活版印刷」を伝えたコンスタンチノ・ドラードは諫早生まれの日本人です。

※ミゲルは洗礼名。イエズス会を脱会した後は、「清左衛門」と名乗った。信仰は保っていたとみる研究報告もある。



ミゲルの生涯

- 永禄十二年（一五六九）● このころ、釜蓋城（現在の雲仙市千々石町）の城主・千々石直員の子として生まれる
- 天正八年（一五八〇）● 有馬セミナリヨに入学。ここで、伊東マンショ・原マルチノ・中浦ジュリアンとともに使節に選ばれる
- 天正一〇年（一五八二）● 天正遣欧少年使節、長崎を出航
- 天正一二年（一五八四）● リスボンに到着。同年、スペイン国王フェリペⅡ世に謁見
- 天正一三年（一五八五）● ローマ教皇グレゴリウス十三世に謁見
- 天正一五年（一五八七）● 〔大村純忠、大友宗麟の死〕〔豊臣秀吉によるバテレン（宣教師）追放令〕
- 天正一八年（一五九〇）● 使節団、長崎に帰着
- 天正一九年（一五九一）● イエズズ会に入会
- 慶長六年（一六〇一）● このころ、イエズズ会を脱会 その後、大村藩に仕え、名を清左衛門と改め、妻を迎える
- 慶長一一年（一六〇六）● 大村藩でバテレン（宣教師）追放 その後、大村喜前の信頼を失い、有馬へ逃れる
- 慶長一七年（一六一二）● このころまでに、長崎に逃れる
- 寛永九年（一六三三）● 伊木力にて亡くなる（享年六十四歳）

他の天正遣欧少年使節

- 伊東マンショ　慶長十七年（一六一二）　長崎で病死
- 原マルチノ　寛永　六年（一六二九）　マカオで病死
- 中浦ジュリアン　寛永　十年（一六三三）　長崎で殉教

千々石清左衛門（ミゲル）の墓